# ヒロシマの記憶

## 幻の原爆フィルムで歩く広島

# 長崎の記憶

## 幻の原爆フィルムで歩く長崎

■作品概要
1945年、原爆が投下されて2か月。
焦土の風景と苦しむ被爆者は日本人の手によって撮影されました。
当時、日本映画社のスタッフが撮影したフィルムには治療を受ける人々や
医師と看護師、焼き尽くされた建物、ガレキに埋まる町の様子が映し出されています。
このフィルムは1946年「広島・長崎における原子爆弾の効果」という映画となって海を渡り、
米軍の教材になりました。
現存する未編集フィルムはハイビジョン処理され、
これまでより詳細な状況が確認できるようになりました。
この作品では、映された映像と現在の場所を対比。
過去と現在、戦争と平和、あるいは当時の記憶を蘇らせる作品に仕上げました。

▲現存する未編集フィルム

## 修学旅行の事前学習などにご活用ください。

作品に収録されている場所を歩くための地図をご用意しております。
広島版　http://nichiei-eizo.jp/shohin/hiroshima-map.pdf
長崎版　http://nichiei-eizo.jp/shohin/nagasaki-map.pdf

### 元広島市長 秋葉 忠利氏より推薦文をいただきました。

広島は不思議な力を持った都市です。
原爆で壊滅的打撃を受けた後、大きなマイナスを大きなプラスにして、
素晴らしい都市を創りました。
さらに今、2020年までに全世界の核兵器を廃絶するという目標に向けて
市民一丸となって取り組んでいます。
この作品では広島の記憶をたどることが出来ます。
「ヒロシマの記憶」は明日を創るための記憶です。
どうかDVDを見たあとは是非、広島にお越しいただき、
ご自身で広島の昨日と今日を確かめてみてください。
そして、明日の世界を想像してみてください。
広島は世界のモデル都市を目指しています。
皆様のお越しを心よりお待ちしています。

秋葉 忠利

被爆直後の浦上天主堂▲
現在の浦上天主堂◥
新興善救護所▶

HIROSHIMA

◀被爆した樹木
◣証言者と原爆ドーム
▼袋町国民学校での救護活動

NAGASAKI

### 長崎市長 田上 富久氏より推薦文をいただきました。

1945年8月9日、長崎で何が起きたのか。
当時の映像と現在の映像とを重ね合わせてみることでより真実に近づける。
あの惨劇が現実に人間の暮らしの上に起きた出来事であり、
人間が生き、死に、傷み、苦しんだこと。今も苦しみ続けていること。
人間が立ち上がり、力を合わせてまちを再興してきたこと。
二度と、誰にも、この惨劇を繰り返させないために語り続けてきたこと。
そして、ヒロシマ・ナガサキは「終わった過去の出来事」ではなく、
“核兵器と人間”という「現在と未来の問題」
の始まりであったことをぜひ理解してほしい。
核兵器をつくったのが人間ならば、核兵器をなくせるのも人間。
この映像を観た一人でも多くの方が、
核兵器のない世界への道を歩む私たちの仲間に
加わってくれることを願っています。

長崎市長　田上　富久

商品名：DVD『ヒロシマの記憶　幻の原爆フィルムで歩く広島』
製作年：2004/2005年
仕　様：DVD片面一層/MPEG-2/NTSC/4：3/ステレオ/パートカラー
言　語：日本語
収　録：全10作品　本編35分　　品　番：NELD-002
製作著作：㈱中国放送・㈱日映映像

RCC　日映

商品名：DVD『長崎の記憶　幻の原爆フィルムで歩く長崎』
製作年：2008/2009年
仕　様：DVD片面一層/MPEG-2/NTSC/16：9/ステレオ/パートカラー
言　語：日本語
収　録：全10作品　本編37分　　品　番：NELD-003
製作著作：長崎放送㈱・㈱日映映像

NBC長崎放送　日映

## 価　格

個人貸出・館内上映権付　各10,000円（税別）
個人貸出・館内上映・団体貸出・館外上映権付　各20,000円（税別）

# 幻の原爆フィルムで歩く 広島 長崎

## ヒロシマの記憶

**収録時間：約35分　全10話**

**①相生橋　【3:30】**
爆心から300mの相生橋は、原爆投下の目標でした。上からの爆風が水面に反射し、橋全体が持ち上げられました。欄干が落下した箇所もありましたが、通行には支障はありませんでした。相生橋は1983年に架け替えられ、被爆の記憶をとどめるものは残っていません。

**②袋町国民学校～伝言～　【3:30】**
袋町国民学校は爆心地から 460m の至近距離に位置し、朝会で校庭にいた先生、生徒約 160 人はほとんどが死亡、木造の校舎は倒壊し焼けてしまいました。原爆投下後も形を残した西校舎の一部は隣接する「平和資料館」の中で保存されています。

**③広島城　【3:30】**
戦国時代に築かれた広島城は、鯉城（りじょう）とも呼ばれ、西国屈指の規模を誇る城でした。しかし、爆心地から 980m の至近距離にあった国宝の天守閣は爆風により一瞬で崩壊。その後 1958 年に天守閣、1994 年に二の丸や太鼓やぐらが復元。今は観光地として知られています。

**④西蓮寺・西向寺　【3:30】**
原爆ドームから道路ひとつ隔てた場所に「西蓮寺」と「西向寺」があります。2 つの寺には、ほぼ真上から原爆の熱線と爆圧を受けた墓が今もたくさん残っています。熱線を受けて変化した墓石の様子は、60 年を経た今でも、はっきりとわかります。

**⑤天満橋と元安橋　【3:30】**
天満橋は原爆で燃えましたが、通行には支障がありませんでした。しかし、その後の水害で電車専用の橋とともに流失しました。元安橋は爆風により笠石が外側方向にずれ、欄干はすべて川に落下しました。現在の橋には橋の名前を刻んだ大理石と両側の柱が再利用されています。

**⑥植物の被爆　【3:30】**
原子爆弾は広島の植物にも大きな影響を与えました。熱線による影響は広範囲で見られ、約 4km 離れた己斐地区でも、植物が焼けた様子が映像に残されています。現在、爆心地から 500m 以内には、4 か所の被爆樹木が被爆前と同じ場所で枝を広げています。

**⑦広島逓信局　【3:30】**
広島逓信局は、郵政と通信を管轄する逓信省の中国地区管理機関でした。原爆で 28 人が死亡、全員が重軽傷を負いました。隣の逓信病院には、被爆直後から多くの被災者がつめかけました。フィルムには逓信局で暮らす患者と、その家族などの様子が映っています。現在、旧逓信局の敷地内には、原爆慰霊碑があり、局舎玄関の階段の一部が残されています。

**⑧広島赤十字病院～姉と弟～　【3:30】**
フィルムに映る幼い姉と弟は、爆心地から 1km の舟入町で被爆しました。数日後、2 人は脱毛や発熱などの症状を訴え始めました。
原爆の放射能による急性症状でした。広島赤十字病院（現：広島赤十字・原爆病院）には、原爆投下後混乱の中で医師が書きとめた血液検査の膨大なデータが今も保管されています。

**⑨一番電車　【3:30】**
被爆2ヶ月後のフィルムには、焦土と化した広島の街を走る電車の様子が撮影されています。原爆投下時は朝の出勤時間帯で、108両が被害を受けました。電力の供給も止まり、電車は完全にストップしましたが、懸命な復旧作業によって、被爆3日後には己斐―西天満町間で折り返し運転が再開しました。被爆60年後の広島を元気に走る「被爆電車」の様子が印象的です。

**⑩広島県産業奨励館～継承～　【3:30】**
原爆は、広島県産業奨励館（現・原爆ドーム）の南東 160m の上空580mで炸裂しました。職員らは全員が即死。周辺の町並みは壊滅し、人々の営みも消えました。核兵器が人類に何をもたらすのか。原爆ドームは、傷ついた姿をさらしながら私たちに訴え続けています。

## 長崎の記憶

**収録時間：約37分　全10話**

**①浦上天主堂　【4:00】**
キリシタン弾圧に耐えた浦上のカトリック信者が30年の歳月をかけて建設した浦上天主堂。東洋一の威容を誇ったその天主堂は、一発の原子爆弾によって全壊、全焼しました。破壊された浦上天主堂を記録した貴重な映像と多くの家族の命を奪われたカトリック信者の証言です。

**②新興善救護所　【3:51】**
現在の長崎市立図書館の場所にあった、新興善国民学校は原爆投下後、市内最大の救護所となり、負傷した多くの被爆者が手当てを受けました。今日は救護活動に従事した看護婦や、手当てを受けた被爆者の証言を交えながら、当時を振り返ります。

**③鎮西学院　【3:27】**
現在活水中学・高校の校舎として使われている長崎市 宝栄町の鉄筋コンクリート建ての建物は、昭和5年に完成した鎮西学院の旧校舎で、原爆で破壊され、100人を超える教職員や生徒らが亡くなりました。

**④爆心地　【3:31】**
爆心地と原爆の爆発点は、どのようにして測定されたのか。熱線の温度が数千度に達した爆心地と、その周辺では、町と人間は、どのような被害を蒙ったのか、被爆者の証言を交えてお伝えします。

**⑤浦上刑務支所　【3:36】**
爆心地から、わずか100メートルの至近距離にあった浦上刑務支所は、原爆で全壊、全焼し、職員や受刑者ら130人あまりは、全員爆死しました。その中には、県内の炭鉱に強制連行された中国人や韓国、朝鮮人も含まれていました。

**⑥城山国民学校　【3:24】**
爆心地から500メートルの至近距離にあった城山小学校は、原爆の爆風や熱線で破壊され、児童や教職員など1,400人以上が犠牲となりました。生き残った教師の証言をまじえて、当時の惨状を振り返ります。

**⑦三菱兵器製作所大橋工場　【4:00】**
魚雷専門の工場としては、世界でも有数の規模といわれた、三菱兵器大橋工場。真珠湾攻撃などで使われた航空機から、投下する魚雷を生産していました。太平洋戦争開戦の年に建設が始まり、原爆で壊滅的被害を受けた、大橋工場について、元従業員の証言を交えてお伝えします。

**⑧長崎医科大学　【3:32】**
爆心地から、およそ600メートルにあった、長崎医科大学。原爆によって壊滅的な被害を受け、教授・学生・看護婦ら、およそ900人が犠牲となりました。そこで被爆した看護婦や学生の証言を交えながら当時の惨状を振り返ります。

**⑨三菱長崎製鋼所　【3:30】**
三菱製鋼所は、今の長崎ブリックホールや原爆病院などの場所にありました。当時、三菱製鋼所では、鋼板や航空機の部品などが作られており、原爆で1,400人以上が犠牲となりました。

**⑩交通機関　【3:47】**
市民の足として親しまれ、原爆で多くの乗員・乗客が亡くなった路面電車と、傷ついた被爆者を救援した、国鉄蒸気機関車。
当時のフィルムと、元運転士らの証言をまじえながら、原爆が長崎の交通機関に及ぼした被害をお伝えします。

**価格**
個人貸出・館内上映権付　各10,000円(税別)
個人貸出・館内上映・団体貸出・館外上映権付　各20,000円(税別)

MAP

**歩くための地図を公開中です。是非ご利用ください。**

ヒロシマの記憶 幻の原爆フィルムで歩く広島　http://nichiei-eizo.jp/shohin/hiroshima-map.pdf

長崎の記憶 幻の原爆フィルムで歩く長崎　http://nichiei-eizo.jp/shohin/nagasaki-map.pdf